

平成29年度第1回「みやぎの環境保全米県民会議」が、6月13日JAビル宮城 会議室で開催されました。宮城県内のJAの組合長と河北新報社、東北放送、みやぎ生協、あいコープみやぎ、弁当のこばやし、楽天野球団、環境保全米ネットワークなど県民会議の構成メンバーが集まりました。報告事項では、昨年度の取り組みとして、各JAの環境保全米の生産状況や環境保全米のPR活動（仙台大学での環境保全米の試食会など）と環境保全米の圃場と慣行栽培の圃場での生き物調査の比較結果が報告されました。協議事項では、今年度の活動について提案され、読者からの意見が反映される情報発信や、大崎地域での日本農業遺産登録、世界農業遺産推薦をどのように環境保全農業と結び付けていくかが議論されました。大崎地域を代表してJA古川の組合長から意見表明がありました。



環境保全米 通信



事務局：宮城県農業協同組合 中央会 仙台市青葉区上杉 1-2-16 TEL:022-264-8247 FAX:022-264-8239 編集協力：NPO 法人 環境保全米ネットワーク

世界農業遺産へ

「大崎耕土」の巧みな水管理による水田農業システム

赤とんぼ食堂～環境保全米を使った日本酒を味わおう!!～



5月24日 JAビル宮城 地下1階「さなぶり」で第8回赤とんぼ食堂を開催しました。参加者は29名で内女性が6名でした。

今回は、JAみやぎ登米の環境保全米を石越醸造で造ったお酒「登米」をはじめとした6種類の日本酒を味わいながら、新鮮な野菜を使用したお料理をいただきました。「澤乃泉」で有名な石越醸造株式会社での酒造りや酒米作りのお話、日本酒と料理の相性等を聞き、ほろ酔い気分での楽しい交流会でした。

ご意見をお聞かせください

環境保全米通信ではアンケートモニターを募集しています。この1年間に寄せられた皆様の声をまとめました。アンケートをお寄せいただいたのは延べ30名、うち20名が仙台市の方でした。興味を持たれた記事では「ささ結」などの新品種についてが6名、販売所や生産者についてが5名、米粉についてが4名などでした。保全米についての疑問や質問では、環境保全米を初めて知ったという方が3名、保全米のことをもっと知りたいという方が11名、具体例として農薬を減らした代わりにどのように害虫駆除をしているのか知りたいという方が3名でした。

アンケートの結果から、環境保全米が水田や人に優しいということは分かるが、具体的にどう優しいのか、普通のコメ作りとどう違いどのように工夫しているか、もっとPRしてほしいという、皆様の声が聞こえてきました。環境保全米通信は消費者と生産者や生産団体をつなぐ架け橋として、今後も皆様の声を募集しています。

アンケートモニター大募集!

アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で、10名様に環境保全米2kgプレゼント!!

Q1 今号で、興味をもった記事はどれですか。興味をもたれた理由もお願いします。

Q2 環境保全米についての疑問や知りたいこと、取上げ希望のテーマなどご自由に。

■応募方法：アンケートの回答・お名前・年齢・ご住所・お電話(FAX)番号をご記入の上、FAX・メール・郵送で、下記までお送りください。

■応募〆切：2017年8月31日 ■抽選結果は、発送をもって代えさせていただきます。

回答者10名様に
お米プレゼント!



写真提供：大崎市

大崎耕土を構成する大崎市、色麻町、加美町、涌谷町、美里町の1市4町が日本農業遺産に申請した『「大崎耕土」の巧みな水管理による水田農業システム』が、このたび『日本農業遺産』に認定されました。また国連食糧農業機関（FAO）が認証する『世界農業遺産』への国内推薦が決定されています。

宮城県内の多くの河川流域で展開されてきた水害や冷害に対応する水田農業の技術や農法、農耕文化とのつながり方が、「大崎耕土」で際立って残されていたことが評価されました。日本農業遺産や世界農業遺産は、先人達の工夫や学びの知恵が蓄積されてきたことの評価はもちろんですが、この農法を持続可能なものにしていくことが今後義務付けられ、その対応策も評価されます。今回は、この農業システムと管内2JAの対応を紹介します。

アンケートモニター 大募集!



アンケートにご協力いただいた方の中から
抽選で、10名様に環境保全米2kgプレゼント!!

水・人・知恵の3つのつながり(ネットワーク)が相互に関連し合っ生み出される農業のしくみです。

水 堰～用水～排水～遊水地～ため池にみられる体系的なつながり
水害常襲地域である江合川と鳴瀬川流域での水管理基盤の数百年に亘る整備のしくみです。それは、上流域の奥山の定期的な森林管理に始まり、中流域での取水対策の37の堰の設置や30箇所以上の潜穴・隧道を作って洪水調整機能と用水機能を併せもった用水路を整備しました。また下流域の洪水対策として3つの遊水地（蕪栗沼、品井沼他）を作り、水不足対策としては1,152箇所のため池を整備するなど水のつながりが創られました。

人 水管理のつながりを維持管理するためには、これを支える人々のネットワークが創られ継承されてきたことが重要です。用水路の江払いや堰、潜穴の補修、ため池の池さらいを常に行う、集落ごとの村落組織である671の「契約講」を基盤とした水利組合や土地改良区の活動等による人のつながりが特徴的です。

知恵 水管理の人々のネットワークを常に活性化するための学びのしくみがあります。

- 知恵① 契約講と船形山信仰、籠峯寺信仰等、民間信仰を通じて耐冷性の強い種子の選定が行われました
- 知恵② 常襲する冷害のための深水管理やぬるめ水路、除草のための深水などの水管理技術の蓄積・普及
- 知恵③ 有畜複合農法を軸にした堆厩肥による豊かな土作り技術の継承・普及



8月の居久根 撮影：大友良三

また、水田農業システムが創る独特の景観と多様な生物によって創り出される生態系も高く評価されました。水田・用水路・ため池からなる水田農業景観と防風・防火の減災機能や燃料や用材を提供する自給機能などを有する24,300箇所の居久根（屋敷林）の景観、こうした景観の機能を拠り所にした多様な生物による生態系も特徴的です。

写真提供：大崎市



館前堰 出典：館前沿革史



農業用排水路

JAみどりの

1.提携3生協に向けて世界農業遺産の情報を発信し、差別化を図る

消費者は世界農業遺産への関心が高いため、提携3生協（パルシステム、東都生協、みやぎ生協）やAコープの消費者らに、大崎の農業システムの価値を分かりやすく伝え、米を食べることを通じて世界農業遺産を支援することをアピールしていきます。

2.世界農業遺産の農業システムを理解する体験交流イベントの企画

世界農業遺産で認定される農業システム、農業景観、生物多様性を交流・体験活動の企画に活用していきます。提携3生協と生き物調査や田植え、稲刈りなどの農業体験をはじめ、世界農業遺産の農業システムを実感できる体験交流を企画します。

↓交流の様子



3.世界農業遺産を継承してきた食文化や景観、生態系の担い手づくり

現在行っている食文化体験学習（漬物等の加工食品作りや味噌等の発酵食品作り）や食農学習を通じて地域の農業システムを継承できる人づくりを目指します。

JA古川

1.地域の環境を活かしたブランド米づくり

平成28年度から、地域の土壌条件にあった環境保全型の米づくりがはじまりました。この米づくりでは、地域の環境を配慮した特別栽培米の基準と食味計を使った食味基準にもとづいて、生産者、生産圃場を限定して栽培しています。この地域ブランド米は、東京の消費者に販売予定です。

2.地域の農業と環境、食文化を体験する場づくり



↑「粹回し」を使った昨年の田植えの様子

農業と環境・食の体験イベントでは、JAで行ってきた様々な取り組みが活用されています。「JA古川ファミリーアグリパーク」という企画は、食と農の体験プログラムで田植えや稲刈り、枝豆の収穫等、年5回行われています。この他に幼稚園や小学校での食農学習の啓発を行っていて、幼稚園でのサツマイモ定植作業の出前授業や小学校への食農学習教材の配布などを進めています。また、女性部では、親子向けの伝統料理教室を毎年行っていて、地域に伝わる「精進料理」の継承に取り組んでいます。

3.地域農業と環境の担い手である人づくり

農の人づくりでは、集落営農を中心にした農の担い手作りと合わせて、担い手課を設置し、JAが地域農業に直接関わっていく事業をはじめました。こうした3つの取り組みを通じて、世界農業遺産認定の農業システムを持続可能なものにしていきます。



環境保全米宣言



みやぎの「環境保全米」は、

- 化学肥料や化学農薬を大幅に減らして栽培しています。
- 土や水を元気にして、水田の生きものを豊かにしています。
- 二酸化炭素を減らし、地球温暖化の防止に努めています。
- 消費者にも農家にも優しい「安全・安心」なお米です。

私たちは、みやぎのお米すべてを「環境保全米」にしていくことを目指します。
以上、宣言いたします。